

ENEOS海外渡航支援事業報告書（留学渡航）

2026 年 7 月 13 日

工学部・~~工学研究科修士課程~~（どちらか〇で囲む）

所属学科・専攻・回生 建築学 学科・専攻 2 回生

氏 名 澤村 俊樹

1. 渡航期間 2025 年 8 月 31 日 から 2026 年 7 月 7 日

2. 渡航先（国・場所・機関等）

フランス・パリ・国立建築大学パリ＝ラ・ヴィレット校

3. 留学で得られた成果（概要）

私は留学先大学での前期授業において、「レストランや食品関連事業者への供給を目的として開発された都市型の管理環境農場は、食品の品質を向上させるとともに、都市における生態学的フットプリントや持続可能な資源利用に対する市民の意識を高めることで、どのように地域コミュニティのつながりを強化することに貢献しているのか。」というテーマの下、3 人のグループでクリティカルマップ（ある物事・概念どうしの論理関係を図式化したもの）を作成する活動を行った。その活動の一環として、パリ市内や郊外にある都市農園をいくつか実際に見学することができた。具体的に見学した場所は「La Recyclerie」と「La Prairie du Canal」である。

次にこの活動を通して得られた知見について述べる。「La Recyclerie」については、もともと駅舎だった施設が転用されてできたものであるが、その性質上細長く狭い敷地に農地がある。そのため、少ない土地や資源を有効活用するための人工的に管理された環境や設備が充実していた。例えば、雨水を貯め農業用水として活用する設備や、植物に与えた水分を、魚を飼育する水槽の水として再利用する設備などである。また都市部にあるため周辺に住む人口や人の往来も多く、人々の都市農園への意識向上やコンポストの普及にも貢献することができる。実際にこの施設は農場を一般公開しており、設備ごとにその機能を説明するパネルが設置されているなど、都市農園の活動を人々に周知する教育の場としての役割も果たしていた。またこの農園は表立ってはレストランとして機能しているため、ここに立ち寄った人々が気軽に農園に立ち寄れる構造になっていた。このように、建築の新陳代謝が早い、土地が狭い、人口が多いといった都市の特徴に農業を上手く応用することで、農村部ではあまり見ることのない独自の農業形態が確かに存在していた。そしてそれは、何らかの理由で廃墟化し「都市の穴」となった場所を埋めて有効活用できる上に、都市に欠けている要素を提供し、長期的に見たときに都市のレジリエンス向上に寄与していることが分かった。「La Prairie du Canal」については、郊外にあるため比較的広い敷地に農地が広がっている。その広大な土地を利用して、都市農園以外にイベント会場としても機能している。実際にこの施設では音楽イベントやダンスイベントが週末に開催され、人々の交流の場となっている。このように、都市農園は一時的な文化的活動の場としても機能することができるため、新たなコミュニティ形成の場となり得る。こういった場はある意味で「都市の余白」的な性質を持ち、生産の場と消費の場を共存させることで結果的により高効率な土地の活用が可能となることが分かった。これらの知見は、都市農園を介した都市計画の原理であり、日本の都市にも十分応用可能なものである。私は今後、この留学で学んだ原理を研究や将来のキャリアに活用し、日本の都市の未来について考えていくとともに、それらを実際に形作っていく所存である。

4. 奨学金の使途

渡航費の一部

行き（120,700 円）

帰り（142,290 円）